



台東区で必要な特定ケア看護師とは

台東区立台東病院 特定ケア看護師 岡田芳恵

特定ケア看護師を目指すようになった経緯

私は大学を卒業後、6年間大学病院の内科病棟で勤務しました。その間多くの退院困難事例に遭遇し、その多くが病気やそれに伴う医療処置を理由に、住み慣れた自宅での生活を断念せざるを得ないケースでした。また、国の方針として地域包括ケアが推進されており、最期の時間をどこでどのように過ごすかといったことが社会的な課題となっていることを知り、患者さんやご家族が望む医療を提供するためには地域でみる必要があると考え、地域を支える台東区立台東病院に転職しました。

台東区は観光と商業が盛んな街で面積は23区内で最も狭い地域ですが、区内人口に占める65歳以上の割合が23.6%、年間の死亡率は10.8と23区内で1番高いことが報告されています。隣接区に大学病院や専門医療機関が複数あることや、日雇い労働で生計を立て、簡易宿泊所などで生活されている方が多くいらっしゃることも、台東区の特徴です。その中で台東病院は、「ずっとこのまちで暮らし続けたい」を応援します」という組織理念のもと病院、施設、行政と連携して地域に根差したサービスの提供、構築に取り組んでいます。地域の特徴を踏まえ、地域でのお看取りを充実させること、急性期治療を終えた医療依存度の高い高齢者の地域生活を支えること、独居や住環境が整わない状況下での療養生活を支えることが求められており、そのためには医師の判断を待たずに特定行為を活用して患者さんに対応する看護師が必要であると考えました。

台東病院での臨床研修

特定行為研修を終え、臨床研修では診療部の総合内科の先生にご指導いただき、外来・病棟・老人保健施設の3ヵ所で研修を行いました。実際に患者さんを受け持ち、診療を行うのは初めてでしたし、さまざまな疾患、さまざまな背景の患者さんがいらして、戸惑うことも多かったです。また、特定行為に係る看護師については私が台東病院では初めてでしたのほとんど知られていませんでした。そのためまず、自分自身に何ができるか、どのようなことを勉強したいかを明確にし、各部署にプレゼンテーションを行いました。

私自身もどのように研修を進めていけば必要とされる看護師になれるかとても不安でしたが、指導医の先生と日々一つのプロブレムを大



研修中から現在まで指導してくださってる台東病院診療部の先生方、診療看護師の筑井さん



お世話になったシティ・タワー診療所、シティタワー訪問看護ステーションの皆さんと、お世話になった揖斐郡北西部地域医療センターの皆さん

切にコツコツ学習しながら診療を行い、看護部長とサポートに入ってくださった診療看護師さんに助けをいただきながら実際の活動と周知活動を行っていきました。体力的にも精神的にも大変なことが多かったですが、院内の皆さんのご理解、ご協力いただいて1年6ヵ月の研修を無事終えることができました。

在宅診療・訪問看護研修 in 岐阜

臨床研修中に2週間、訪問診療・訪問看護研修として岐阜のシティ・タワー診療所と揖斐郡北西部地域医療センターへ行かせていただき、多くのことを学ぶことができました。病院と比べ特定行為を実施する件数は多くはありませんが、臨床推論がなにより必要であり、特定ケア看護師として慢性疾患のコントロールや一般的な疾患の対応が求められていると感じました。さらに、昨年受講したPOCUS-エコーの手技は

とても有用で今後検査技術レベルアップを目指したいと思いました。

また、地域医療の現場で働くうえで予防活動の必要性を実感しました。特定行為のスキルアップはもちろんですが、特定行為が必要にならないためにどのようなことを考え、どのようなケアを実践していくかを考えられるようになることが今後の課題です。

急なお願いにもかかわらず、快く研修を受け入れてくださったシティ・タワー診療所と揖斐郡北西部地域医療センターの皆さんに心から感謝しております。本当にありがとうございました。

今後の課題

私が特定ケア看護師の研修に参加できたのは偶然でしたが、特定行為研修～診療所研修～自施設での臨床研修～在宅診療・訪問看護研修を経てさまざまなことを学び、またさまざまな自己課題が見つかりました。また、活動していくにつれ、内科や整形外科の先生方、外来・病棟・老健の看護師から声をかけていただけるようになり活動の幅はどんどん拡大しているように感じています。

今後は在宅で活躍できる看護師を目指して学習を進めていきたいと考えています。そのためには看護師として充実したケアを行うことはもちろんのこと、特定ケア看護師として内科的なプロブレムに対応する知識や技術、さまざまな背景の患者さんに対して終末期医療・意思決定支援ができるようなコミュニケーションスキルの獲得などを学習していきたいです。まだまだ始まったばかりの制度で不安もありますが、できる可能性が広がっている分野だと確信しており、今後仲間がどんどん増えてほしいと思います。